

～臨床検査技師としての将来性と可能性～

◎山崎健太¹⁾ 井ノ上稜¹⁾ 大西里佳¹⁾ ,角幸未¹⁾
天理医療大学¹⁾

【学校紹介】

天理医療大学の学則に“人に尽くすことを自らのよろこびとする” という天理教の信条教育を基調として、広い知識の獲得と専門性の高い技術の習得および真摯に科学する精神を育むという理念が掲示されています。私達は、疾患の診断や治療に関わる知識と技術のみならず、人を助けるという深い愛情をもった医療人を目指し、日々学問に勤しんでいます。本学は講義だけでなく、多分野の学内実習や臨地実習を通して豊富な知識と基礎的な技術を習得することができます。臨地実習は、本学の母体である天理よろづ相談所病院で約半年間実施され、検査管理や検査の一連の流れ・仕組みを学びます。また、臨床医を始め異職種との合同カンファレンスにも参加させていただくことで、チーム医療の一員として働くことの責任感を肌で感じることができます。チーム医療は在宅医療センターでの患者宅訪、感染管理、栄養サポート等に参加します。

【臨床検査技師としての将来性と可能性】

臨床検査技師が行う検査は、従来その検査結果は紙媒体で報告する方法が一般的であった。しかし、現在では検査システムの導入により、検査結果から検査報告までの時間を短縮だけでなく、ヒューマンエラーの減少、人員削減なども可能となった。今後は、さらなる医療技術の進歩に伴い、AI の登場を始めとするさまざまな自動化システムの向上が期待される。その一方で、検査技師のあり方に変化が起きていることが予想され、臨床検査技師の活躍の場が狭まる恐れがあり、危機感を抱いている。そうした中で、人にしかできないことは何であろうか？例えば、チーム医療の一翼を担う技師として活躍できる場所はどのようなものなのかを模索し、将来求められる臨床検査技師のあり方を考えることが必要である。このシンポジウムでは私たちが3年次、4年次の実習で得た経験に基づき、これからの現場で活躍する臨床検査技師に期待することを提示する。